

ニボルマブ・イピリムマブ療法

治療スケジュール

	外観	お薬名	薬の効果	スケジュール (点滴時間)	
				1日目	2-42日
1		ニボルマブ	腫瘍の増殖を抑える	60分	22日目
2		イピリムマブ	3腫瘍の増殖を抑える	30分	お休み

点滴時の過敏反応

点滴開始直後から2時間後頃に多くあらわれます。

多くの場合、初回の治療中に起こり、2回目からは少なくなる傾向にあります。しかし、2回目以降に初めて副作用があらわれる場合や、それまでとは違う副作用があらわれる場合もあります。

副作用の主な症状

○発熱 ○悪寒（ふるえ） ○発疹 ○かゆみ ○痛み ○頭痛
○吐き気 ○動悸 ○脱力感 ○咳 ○息苦しさ



***これらのような症状があらわれた場合はすぐに看護師に伝えてください。**

治療の副作用について

吐き気 嘔吐

個人差はありますが、点滴開始後1～4時間後より始まり、通常1～7日以内に治まります。

<対策>

- ・ 食べられるものを無理せず、食べられるだけ食べてください。
- ・ 水分をなるべく摂ってください。（スポーツドリンク、お茶など）
- ・ 脂っこい食べ物は消化に悪いので、適度に食べてください。
- ・ 気分転換に音楽を聴いたり、自分の好きなことをするのも良いです。
- ・ 吐き気止めの薬があるので、我慢せずに看護師に伝えてください。

骨髄抑制

血液の成分（白血球、赤血球、血小板）が低下することで、骨髄抑制は、治療後8～12日頃に起こりやすいです。

1) 白血球が低下すると感染症を引き起こしやすくなります。

<症状>

- ・ 風邪のような症状（咳、熱など）
- ・ 膀胱炎のような症状（排尿時痛など）

<対策>

- ・ 人ごみを避けてください。（外へ行くときはマスクを付ける）
- ・ 外出から帰ったら、うがい、手洗いをしてください。
- ・ 傷をつくらないようにしましょう。
- ・ 入浴、歯磨きをしっかりと体を清潔に保つようにしましょう。
- ・ 必要に応じて、抗生物質や白血球を増やす薬を使うことがあります。

2) 赤血球が減少すると、貧血症状（動悸、息切れ、だるさ、ふらつき）が起こります。

<対策>

- ・ ゆっくり起き上がるようにしましょう。
- ・ めまい、ふらつきがひどい時は、看護師に伝えてください。

3) 血小板が減少すると、出血しやすくなります。

<対策>

- ・ やわらかい歯ブラシで、やさしく歯磨きしてください。
- ・ 鼻を強くかまないでください。

大腸炎・重度の下痢

大腸の粘膜に炎症が起こり、出血したり重度の下痢が現れることがあります。症状が進行すれば命にかかわることがありますので、注意が必要です。

以下の症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- 下痢（軟便）あるいは、排便回数が増えた
- ネバネバした便や血便
- 刺すような腹の痛み

重度の皮膚障害

体中が赤く腫れたり、発疹や水ぶくれが現れることがあります。また、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血などが起こることがあります。そのような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

甲状腺機能障害

体の新陳代謝を高めるホルモンを作る甲状腺（内分泌器官）に障害が起こり、血中甲状腺ホルモン値が上昇したり、低下することで症状があらわれます。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- 食事の量にかかわらない体重の減少
- 脈拍の乱れ
- 発汗、手指のふるえ

下垂体機能障害

さまざまなホルモンのはたらきをコントロールする脳の下垂体（内分泌器官）に障害が起こり、下垂体ホルモンが低下することで症状があらわれます。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- 疲れやすい、だるい
- 食欲不振
- 頭痛

副腎機能障害

副腎由来のホルモンが低下し、血糖値が下がることがあります。急性の場合は意識がうすれることがありますので、注意が必要です。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 疲れやすい、だるい
- ・ 食欲不振
- ・ 血圧の低下
- ・ 意識がうすれる
- ・ 吐き気・おう吐
- ・ 発熱、便秘、体重減少

1型糖尿病

膵臓からインスリンが分泌されなくなって、慢性的に血糖値が高くなることがあります。特に急激に血糖値が上昇した場合には命にかかわることがありますので、注意が必要です。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 口の中や喉が渇きやすい
- ・ 水分摂取がふだんより多い
- ・ トイレが近い
- ・ 吐き気・おう吐
- ・ 疲れやすい だるい

腎機能障害

腎臓に炎症が起こり、機能が低下することがあります。症状が進行すれば命にかかわることがありますので、注意が必要です。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ むくみ
- ・ わき腹や背中痛み
- ・ 発熱
- ・ 血尿

間質性肺疾患

酸素と二酸化炭素を交換する場である肺の肺胞と肺胞の間に炎症が起こり、肺の組織が硬くなってガスの交換がうまくできなくなることがあります。症状が重症の場合は呼吸がしにくくなり、命のかかわることがありますので、注意が必要です。以下の症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 階段や坂道を上ったりすると息切れがする・息苦しくなる
- ・ 空咳（たんが出ない咳）
- ・ 発熱

心筋炎

心筋に炎症が起こる病気で、かぜのような症状（発熱、咳など）が起きます。急性の場合、命にかかわる場合がありますので、注意が必要です。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 発熱 ・ 疲れやすい、だるい ・ 胸の痛み
- ・ 息切れがする ・ 筋肉痛 ・ 手足のむくみ ・ 咳

重症筋無力症

筋力が低下し、まぶたが垂れ下がってきたり、食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸困難が起きたりすることがあります。以下のような症状があれば、すぐに担当医に相談してください。

- ・ 疲れやすい、だるい ・ まぶたが重い
- ・ 顔の筋肉が動きにくくなる ・ 手足・肩などに力が入らない
- ・ ろれつが回らなくなる ・ ものが飲み込みにくい

ぶどう膜炎

眼の中に炎症が起こることがあります。以下のような見え方の異常を感じたら、すぐに担当の医師に連絡してください。見え方のほかに、全身の異常（頭痛、耳鳴り、白斑、白髪など）が現れることがあります。

- ・ かすみがかかったように見える ・ 虫が飛んでいるように見える
- ・ まぶしく感じる ・ 見えにくい

主な副作用を記載していますが、気になる症状があれば、担当医、薬剤師、看護師にご相談ください。